



特定非営利活動法人フードバンクイコロさっぽろ
〒065-0024
北海道札幌市東区北24条東8丁目1-20
パレスビル24 1F
mail: ikor.sapporo@gmail.com
phone: 080-4855-4466(事務局)

**2022年度
活動報告**

代表ごあいさつ

わたしたちは、食品ロスの削減と 北海道の食のセーフティネットの 構築に取り組みます

いつもフードバンクイコロさっぽろの活動を応援いただき、ありがとうございます。

毎年、活動報告の時期になるとこうして1年間の取り組みを振り返りますが、集計して足跡のように出てくる「活動実績数」に驚くと同時に、多くの方々のご協力で1年間無事にフードバンクを続けることができたことは感謝の念に堪えません。活動に没頭し、ご寄付金やボランティアで支えていただいている方々への日頃のお礼がそぞろになっていることを反省しております。

2022年度は、「コロナ禍の3年間」の最終章ともいえる1年となり、じわじわと傷ついてきた北海道の経済に、物価高と冬の燃料費が重くのしかかり、食品を必要とする人々の深刻さが極まった年度となりました。

一方で、困窮世帯のSOSが迅速に届く仕組みづくりも3年目となり、相談窓口との連携の仕組みが完成に近づいていることにやりがいを感じ、個人や企業の皆さんからの協力が増えていることに勇気付けられる1年でした。「北海道のどこで困っても空腹になることがないように！」を目標に、2023年度も進んでまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

01 代表あいさつ、目次

02 食品の取り扱い量の推移 フードドライブの広がり

03 フードバンク窓口連携の取り組み

04 子育て世帯への食品提供

05 コロナ禍応援プロジェクトのご感想 フードバンクのネットワーク化の取り組みについて

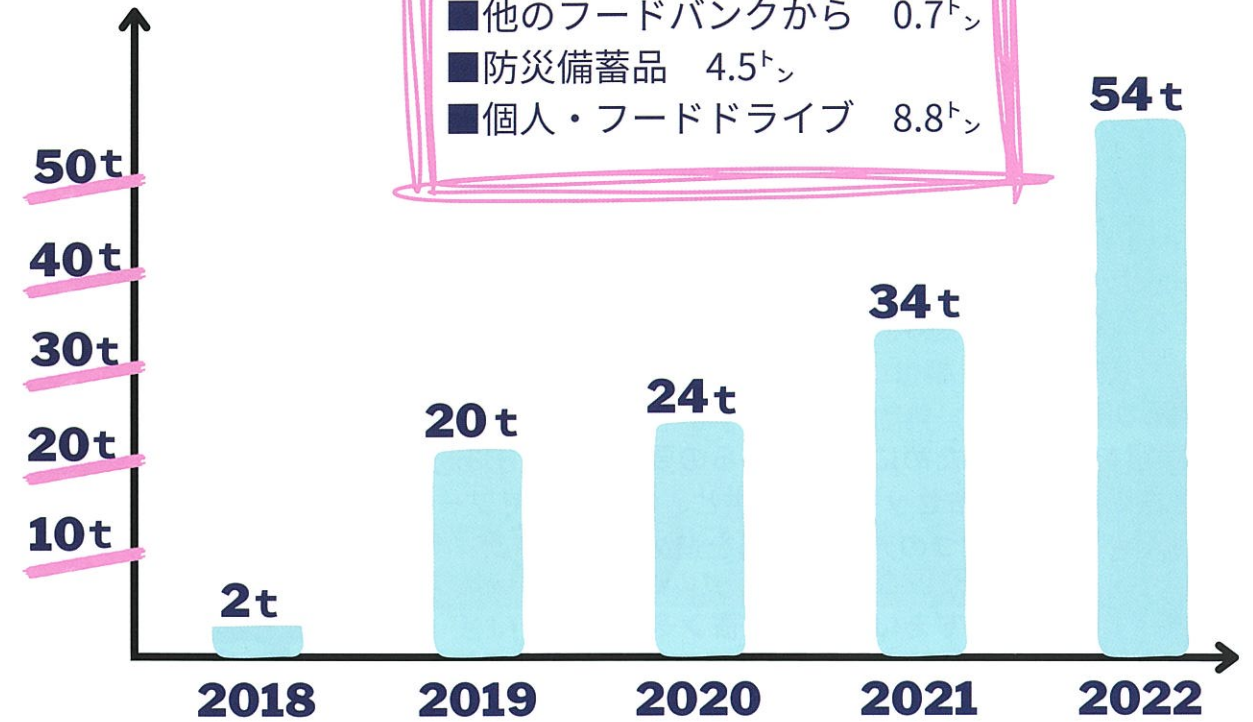
06 ご協力企業、サポーターの皆さま



NPO法人フードバンク
イコロさっぽろ
理事長 片岡 有喜子

北海道拓殖銀行破綻の翌年に就職活動を行う（就職氷河期）。20代は非正規雇用や労働条件の厳しい中で働き、ワーキングプアの状態で過ごす。出産後は家族の障害が分かり、医療や福祉に支えられて育児を行う。40代になり、支えてもらった社会に恩返しをしたいという想いでフードバンクを設立した。1977年、十勝清水町生まれ。

食品取扱量の推移



(寄贈企業・農産者の方については、06ページをご覧ください。)

フードドライブとは、家庭で余剰した食品を持ち寄る運動のことです。

フ **ー** **ド** **ド** **ラ** **イ** **ブ** **!**

缶詰1つから
できる社会貢献



フードドライブは、「食品ロス」や「貧困」の社会課題に対して、個人個人が取り組みできることから、大きな運動として社会で広がりを見せています。

デパートやスーパーの店頭で実施するほか、学校の中で行う「スクールフードドライブ」は学生の社会課題解決の具体的な行動として全国的に活発になっています。今年度もフードバンクイコロさっぽろには多くのフードドライブ品が集まりました。その量、なんと年間9トン。最近では、直接食品に関わりのない企業さんが社内で実施して、倉庫に届けてくれることが増えてきました。SDGSの取り組みは、日本の昔ながらの「おすそわけ」が形を変えて、「フードドライブ」として地域の優しさが循環する温かい取り組みです。

(ご協力企業・団体については、06ページをご覧ください)

フードバンク窓口連携

【社会的課題】

全国的に見て、フードバンクは事業所側に食品を取りに来てもらう形が主ですが、北海道はその広さから自ずと「相談窓口と相談者」「フードバンクと相談窓口」の距離が遠く、フードバンクが対応していない地域も広範囲に及びます。緊急性が高いという理由でフードバンクへの引き取りと個人世帯への配送を窓口職員が行うと、1件ごとに過重の負担が生じてしまいます。

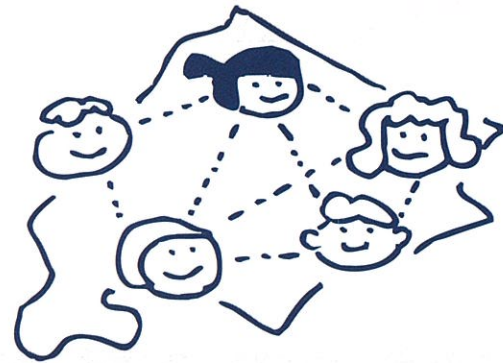
また、相談者の状況はライフラインが切れているなど、使える調理器具が限られるケースも多くあります。同時に、世帯構成や年代（乳児から高齢者）に応じた食料提供を行うには、多種多様な食品ストックが必要となり、適切な保管や賞味期限チェックなどの管理を相談窓口で行うことは、更なる負担を窓口職員に課すこととなります。

【課題の解決】

上記の課題を解決するために、窓口からの要請により①あらかじめ食品パッケージを窓口へ備え付けておく「窓口配布セット」の提供と、②宅配便でフードバンクから直接個人宅に食品を届ける「個人宅配送」の2つの方法で連携を進めています。

相談窓口連携（累計）

- 2020年度 24か所
- 2021年度 43か所
- 2022年度 54か所



窓口配布セット 2022年度

- フードバンクから窓口へ
・・・2152日分
- そのうち、困窮世帯へお渡し
・・・215世帯



3日分セット



1日分セット

個人宅配送 2022年度

- 相談窓口のSOS要請で全道へ発送
・・・265世帯



北海道支援情報ナビ 2022年度 (LINEボット)

- ナビ経由のSOS小包
・・・153世帯



2020年コロナ感染拡大の始まりと同時にスタートした、NPO法人コミュニティワーク研究実践センター「後方支援プロジェクト」の一環として、「フードバンク窓口連携」の拡大が進められました。窓口から要請があればなるべく早く食品を梱包し、全道に向けて宅配便で送りました。冬以降、LINEボットから緊急食料支援を求める困窮世帯からの申し込みも増えました。

子育て世帯への食品提供

コロナ禍応援プロジェクト・・・年間延べ1633世帯

新型コロナウイルスの出現前は、夏休み・冬休み・春休みの長期休みの給食のない時期の子どもを支える「子ども応援プロジェクト」を実施していました。ところが、2020年3月の春休みの小包を発送した後、翌月4月から一斉に休校となり、子育て世帯（特にひとり親世帯）の悲鳴に近い声が聞こえてきました。

「いつまで続くかわからないけれど、送り続けるしかない」と代表からスタッフに話したところ、スタッフも同じ気持ちでした。それから、途切れることなく継続している「コロナ禍応援プロジェクト」は、毎月200近い世帯からの希望がありますが、狭い作業場で安全に活動できるギリギリの個数（毎月130～160個）の小包を送っています。

2022年の冬は物価高と燃料費が困窮世帯を襲い、「コロナ禍で減収しているところに、物価が上がり、どうして良いかわからない。」「どこを切りつめたらいいのか途方にくれている。」といった声が多く寄せられています。

団体が冬に行ったアンケートによると、4人に1人は無職で公的支援がない状態の世帯、4人に1人はライフラインが切れている世帯、家族や知人にのみ相談している（相談窓口につながっていない）人は85%に上っています。今後は85%の方が窓口につながり、必要な支援を受けられるための橋渡し役を担っていけるような団体へ成長していく必要があります。



0円マーケット・・・年間350世帯（場所の協力：やわらぎ齋場様）



ひとり親世帯に対して毎月対面で食品を渡す「0円マーケット」を実施しています。マーケットの名前の通り、イベントに季節感を出すなど、参加して楽しい工夫をしたり、対面だからこそできる「選ぶ」ことを楽しんでもらえる工夫をしています。

感染防止のための、完全予約制・検温・消毒・整理券配布といった対策が必要であったため、イベントの準備や実施がとても大変な事業でしたが、今年度も多くのシンママ・シンパパさんに渡すことができました。

その他の活動

■福祉施設・子ども食堂などのNPOへの食品提供

毎月、倉庫には約4トンの食品が入荷します。そのため、福祉施設やNPO団体への食品の提供を行っています。現在、札幌市内や近郊の登録団体数は、50か所を超えています。



■フードパントリーのバックアップ

当フードバンクが直接手渡しする0円マーケット以外に、食品の配布会を行いたいのバックアップをしてほしいと依頼があることがあります。今年度は札幌市子ども未来局へ145セット、ステップへ1200セット提供したほか、NPO団体等へ計820セット提供しました。

2回目の小包が届きました！

私は仕事で忙しかったのですが、息子から「また届いた！」と嬉しそうに連絡がきて開ける楽しみがひとときあったようです。レトルトカレー、お菓子、ジュースに特に盛り上がりがありました。離婚して半年、まだまだ不安定な息子2人との生活。イコ様からの食糧支援に涙がでます。2ヶ月続けて提供して下さるとは思っていなかったので感謝致します。命をつないでくれる活動、本当にありがとうございました！

コロナもあり、仕事を失い、再就職は出来ましたが、給料は下がりました。光熱費や食材高騰など、全ての事柄が生活を圧迫して毎月ギリギリ…とても辛い生活です。小包の中にあるお菓子は子供はとても楽しみにしています！段ボールが届くと、フードバンクだよね？と聞いてきてお菓子入ってるかなとワクワクしながら私が開けるのを待っています。普段の食事が優先なのでお菓子を買う余裕もないので、今回はジュースも入っていたので更に大喜びでした！

子供が夏休みに入り、ほぼ昼間は1人留守番で食事に困っておりました。大変助かりました。感謝いたします。ありがとうございました。

たぶん、うちの家族構成や開けたときの喜びを考えて丁寧に食材を詰めて下さってるんだろうなあと思うと生活が助かるのは勿論なのですが、改めて自分は決して一人じゃないと感じます。普段自分では買えないハチミツやポン酢などの調味料が沢山で、どれもこれもものすごく助かりました。

フードバンクネットワーク化への取り組み

コロナ禍で食べ物に困る人を支援するための「パントリー」や「子ども食堂」での食品需要が高まることに伴い、食品を集めて配布する拠点となるフードバンクを強化する必要が生じました。そこで、国の令和4年度コロナ対策予備費により、農林水産省のフードバンク活動強化緊急対策事業が全国でスタートしました。フードバンクイコロさっぽろは、(株)マイファームの委託を受けて、2022年度夏から全道のフードバンクに呼び掛けて、北海道圏のネットワーク化を進めています。

くらしのガイドが新しいのが入っていて、助かりました。すごく見やすい冊子でした。こういう冊子があるのも知らなかったので、色々情報が載っていて助かります。また、何か情報があればよろしくお願いします。

11ヶ月の息子が、保育園で色々病気を貰ってきて、家から出られない。仕事に行けない。お給料が減って今月の支払い系は終わったけど来月の分はどうしようと思っていたら、小包が届いて本当に助かりました。仕事も正社員ではありますが、出勤しなければお金は稼げません。今が一番熱が出る時期なんだ！と分かっているにもかかわらずマイナスの生活ではとても苦しいです。でも、今日段ボールいっぱい食品が届いて少し気持ち落ち着きました。ありがとうございます。

本当に本当に食料支援ありがたいです。今回はお菓子が多くとても嬉しかったです。普段は必要最低限の食材を優先し、誕生日やクリスマスにもケーキが買えず、お菓子なんてとても子ども達に与える事が出来ないからです。少しずつ大事にいただきます。本当にありがとうございました！

お米、生理用品、タオル、お菓子、缶詰、牛乳など沢山届いてとても嬉しかったです。コロナの影響で雇用契約が急に終了し、経済的に困窮し辛抱せざるを得ませんでした。このような取組みに大変励まされております。

新型コロナ感染が拡大した2020年3月から、毎月130件から160件の子育て世帯（ひとり親世帯、病気療養中・障害・ひきこもり・不登校に悩む世帯）への小包を発送しています。経済がまだ傷ついている北海道で2023年も実施しています。

- 子供の未来応援助成金
- さぼーとほっと基金
- JANPIA（休眠預金）助成
- WAM通常助成
- 皆さまからのご寄付金
- 賛助サポーター会費

協賛企業&団体 〈敬称略 50音順〉

- ・アシスタントアンドパートナー株式会社
- ・株式会社クリエイティブカンパニー
- ・合同会社 幸 児童発達支援放課後等デイサービスびゅあてい
- ・株式会社シージェイシステム
- ・札幌しらかばライオンズクラブ
- ・株式会社スマートショッピング
- ・株式会社大丸松坂屋百貨店 大丸札幌店
- ・トヨタカローラ札幌株式会社
- ・一般社団法人せいかつ支援機構
- ・株式会社ゼタセグメント
- ・真宗大谷派 徳生寺
- ・株式会社NARITAYA
- ・NPO 法人 Passo
- ・パノラデザイン有限公司
- ・株式会社ビルセス
- ・合同会社ピース
- ・NPO 法人 For step
- ・株式会社北翔
- ・一般社団法人北葉福祉推進機構
- ・市民団体 ボラギャング
- ・株式会社 マテック
- ・株式会社 モナミコーポレーション
- ・株式会社 ユーハイム
- ・株式会社 ライズリング
- ・株式会社 ロイヤルスイーツ
- ・株式会社 Cooking ロマンズ
- ・放課後等デイサービスろまんすレシピ

協力企業（食品提供） 〈敬称略 50音順〉

- ・株式会社 アレフ
- ・KON・GARI(こんがり) 株式会社 ゼルク
- ・札幌しらかばライオンズクラブ
- ・札幌トラストライオンズクラブ
- ・昭和産業株式会社
- ・株式会社ゼタセグメント
- ・日本食研ホールディングス株式会社
- ・日本食品製造 合資会社
- ・日本霊廟株式会社 西岡霊廟
- ・ハインツ日本株式会社
- ・お米農家 細川博史さん（滝川市）
- ・北海道コカ・コーラボトリング株式会社
- ・増田農園（深川市）
- ・明治グループ
- ・卵ラン農場ムラタ（長沼町）

- ・株式会社 ローソン
- ・ミルクランド北海道
- ・むらかみ農園（余市町）
- ・よつ葉乳業株式会社

協力企業（フードドライブ）

- ・アフターマーケット株式会社
- ・グレースコミュニティ（手稲区）
- ・こりっつ認定こども園
- ・札幌第二友の会（東区）
- ・札幌第三友の会（手稲区）
- ・札幌西高等学校
- ・真宗大谷派 徳生寺
- ・住まいる100当番
- ・太平百合が原地区会館
- ・株式会社 大丸松坂屋百貨店 大丸札幌店
- ・日本茶カフェにちげつ
- ・苗穂・本町地区センター
- ・株式会社 パソナ
- ・北星学園女子中学高等学校
- ・一般社団法人 北海道IT推進協会
- ・株式会社 札幌丸井三越
- ・元町まちづくりセンター
- ・税理士法人 山田&パートナーズ札幌事務所
- ・株式会社 ローソン

協力企業（パントリーのための場所の提供）

- ・やわらぎ斎場 北光
- ・やわらぎ斎場 元町
- ・やわらぎファミリア南郷

連携団体

- ・あさぶキッチンりあん
- ・認定NPO法人 Kacotam
- ・子ども食堂キラッと！（札幌市北区）
- ・NPOココロココ（パキスタン孤児院支援）
- ・NPO法人子どもの未来・にじ色プレイス
- ・子ども食堂こみか（札幌市豊平区）
- ・NPO法人コミュニティワーク実践センター
- ・しんぐるまざあず・ふぉーらむ北海道
- ・就労移行支援事業所・就労継続支援B型事業所 花栗凜
- ・NPOボラギャング（子ども食堂よろちせ/あさちせ）

助成

- ・WAM独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
- ・さぼーとほっと基金（札幌市）

皆様からの寄付を募っております

フードバンク活動は皆さまからの寄付とサポーター会費を中心に運営しています。いただいた寄付金は主に倉庫の維持費・梱包材・ガソリン代などにあてております。サポーター賛助会員登録（個人・法人）や、ご寄付をお願いいたします。

【下記の内容をお知らせください】 ikor.sapporo@gmail.com
 ①お名前 ②ご住所 ③電話番号 ④メールアドレス(あれば) ⑤希望の内容 (正会員・ボランティア会員・個人サポーター・法人サポーター・任意の寄付) ⑥口数 ⑦領収書の可否 ⑧名前の公表の可否

<正会員>活動にも運営にもしっかり参加したい方
 入会金0円 会費10年5千円（10口以上）
 <ボランティア会員>主にボランティア活動に参加したい方
 入会金0円 会費10年3千円（10口以上）
 <賛助会員>寄付をメインにサポートしたい方
 ①法人サポートメンバー 会費10年1万円（10口以上）
 ②個人サポートメンバー 会費10年3千円（10口以上）
 ※当法人において、1年とは7月1日から翌年6月30日を指します。
 ※ボランティア会員は説明会に参加した方のみ登録可

【会員にならずに寄付をする】

任意の額（1千円以上から）ご寄付いただけます。

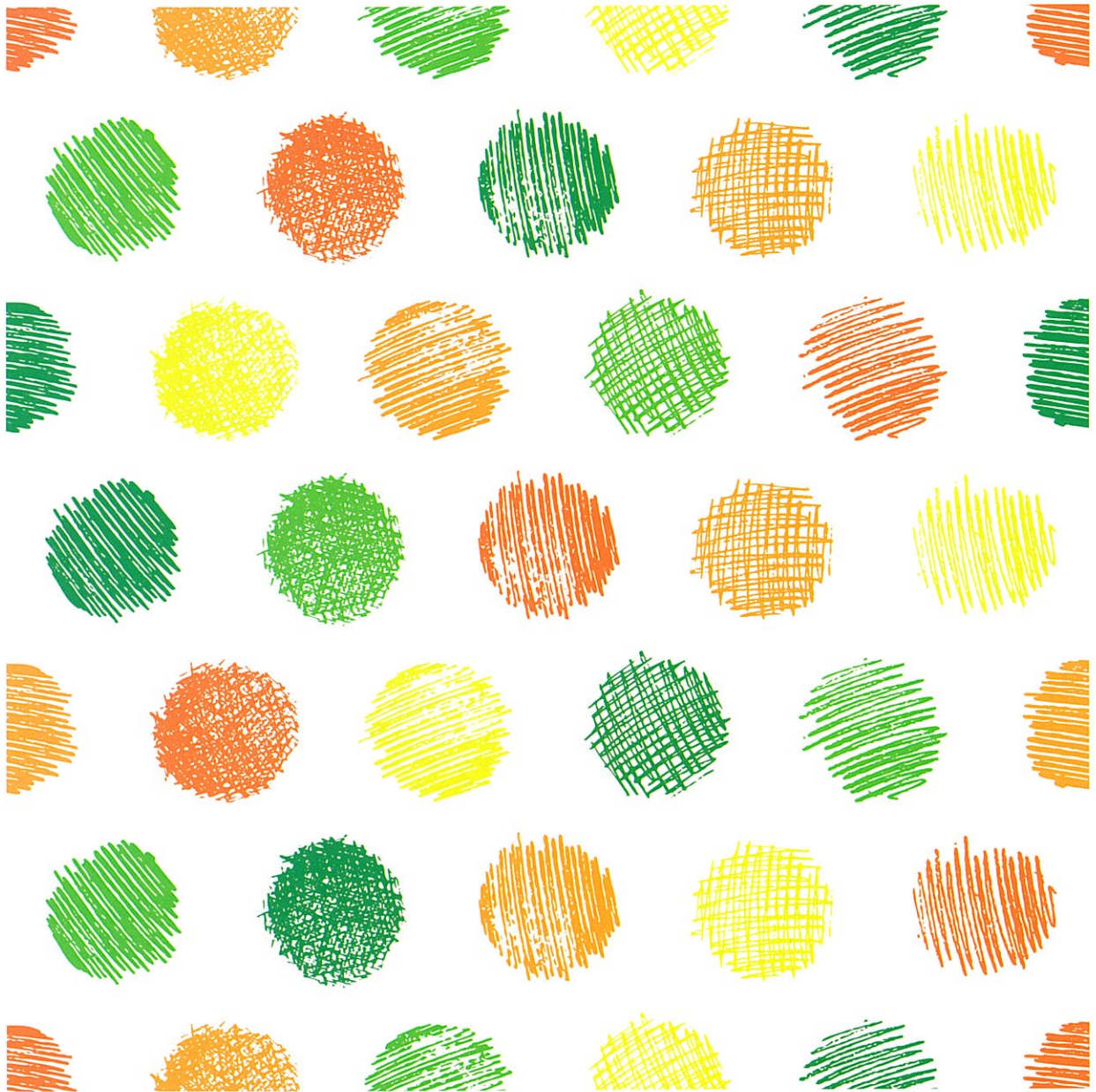
銀行
 銀行名：北洋銀行 北十五条支店

番号：(普通) 4579501
 口座名義：トクヒ フードバンクイコロサッポロリジカタオカユキコ

会費・寄付口座

ゆうちょ
 郵便振替口座：02770-5-103164

口座名称：(特非) フードバンクイコロさっぽろ
 口座名称：7かガナ（トクヒ）フードバンクイコロサッポロ



WAM助成

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

この冊子はWAM（通常）助成を受けて作成しています。



フードバンク イコロさつぽろ

ありがとうを食でつなぐ